

第3回 松原地区のまちづくり有識者会議 議事要旨

- 日時 令和6年11月21日（木）13時00分～14時00分
- 場所 アップルパレス青森 3F ねぶたの間
- 出席委員（7名） 青森県立美術館 美術統括監 池田委員
青森公立大学 教育担当特別教授 内海委員（座長）
青森市教育委員会 教育長 工藤委員
青森大学 副学長 社会学部教授 佐々木委員
有限会社クレイドル 社長 高樋委員
東京藝術大学 准教授（ACC館長） 服部委員
八戸工業大学 准教授 福士委員
- オブザーバー 松原町会 役員 帆江 勇 氏
- 案件

- （1）第2回有識者会議の議事要旨・意見への対応について（資料1・資料2）
- （2）松原地区のまちづくりビジョン（案）について（資料3）

1 事務局説明

- ・案件（1）について資料に基づき事務局より説明（資料1・資料2）
- ・案件（2）について資料に基づき事務局より説明（資料3）

2 委員からの意見聴取・質疑応答

【ビジョン（案）について】

（佐々木委員）

- ・松原地区のまちづくりビジョン（案）（以下「ビジョン（案）」という。）は、総合計画にぶら下がる個別計画の一つという位置付けなのか。

（事務局）

- ・ビジョン（案）は個別計画ではなく、事業を行うことを目的にまとめる任意の計画である。
（ビジョン（案）P5～7において、松原地区のまちづくりにおいて考慮すべき個別計画として記載している青森市都市計画マスタープラン、青森市ファシリティマネジメント推進基本方針等は個別計画である。）

（佐々木委員）

- ・ビジョン（案）に集約されている柱（方針）や様々な意見は、今後の統合施設に係る基本計画へ行き着くという理解になるのか。

（事務局）

- ・お見込のとおりである。

（佐々木委員）

- ・個別計画なのか、もしくは事業に係るビジョンでありいわゆる機能設計等へ進んでいくものなのか、ストーリーをしっかりと捉えておかなければ、KPI（重要業績評価指標）等該当するものが異なってくると思う。その点を明確にするため確認した。

（福士委員）

- ・ビジョン（案）の22ページ「3-3 松原地区のまちづくりイメージ図」（以下「イメー

ジ図」という。)について、これまでの有識者会議における様々な意見が集約されたものであると理解しているが、イメージ図左上枠内の文章に記載されているように、統合施設があるメインエリアと平和公園との関係性は重要であり、東西に延びる緑のラインは市の都市計画にとって重要な位置付けではないかと考えるため、平和公園の左手を観光通り辺りまで広げ、平和公園の右手（東側）も緑に色付けした方が良いのではないかと。

(事務局)

- ・図面上の文字の見え方等への影響もあるため、イメージ図の範囲を広げるかどうかについては、預からせていただきたい。
- ・追加の色付けについては、当該箇所の公園や緑地の位置付けを確認した上で、不足する箇所があれば、追加で色付けすることとしたい。

(佐々木委員)

- ・棟方志功記念館と青森県立美術館の連携を示す動線が記されているが、例えばほかにも、国道沿いに様々なライブが行われている施設等がある。もう少し全体を俯瞰し近隣施設も含めることで、文化・社会教育拠点である統合施設と棟方志功記念館から発信される色々なものが、より豊かで賑やかで、発展性のあるものになると思う。

(内海座長)

- ・ビジョン（案）について大幅な修正意見はなかったが、本日の意見を受けた微修正等については、座長と事務局で相談の上、座長一任とさせていただいてよろしいか。

(座長以外の委員)

- ・異議なし。

【連携や回遊等に関する取組、将来のまちづくりにつなげるための活動等について】

(内海座長)

- ・ビジョン（案）に記載されている課題や対応策、機能等について他に意見がなければ、イメージ図も見ながら、今後の松原地区における連携や回遊等に関して今後このエリアでどのような取組ができるのか、また、将来のまちづくりにつなげるため、どのように効果的な活動ができるのかなど、次のステージに向けた意見をいただきたい。

(工藤委員)

- ・イメージ図に記載のように、松原地区には浦町中学校、堤小学校があるほか 高校も点在しており、浦町中学校区ではコミュニティ・スクールというものを形成している。イメージ図には含まれていないが、浦町小学校、莚町小学校、橋本小学校も合わせた 5 校で構成されており、各学校区から、PTA 会長や町会等が 7 人、計 35 人が集まり学校運営協議会というものを設置している。イメージ図に周辺地域との連携について記載されているが、こうした団体と連携し、子ども達の活動や、それに携わる PTA 等の保護者の活動を創出していくということも考えられるのではないかと。
- ・ちょうど本日、約 50 名の中学生が、連携先として記載されている青森県立美術館で開催されているジブリ展を訪問しており、普段から大変お世話になっている。
- ・棟方志功記念館を活用した体験学習が始まれば、小学生等が青森県立美術館と棟方志功記念館の双方を行き来しながら活動したり、その前段階の活動として、文芸のこみちや平和公園等を利用することも可能になると思う。

- ・令和5年11月に開催した「松原地区のまちづくりビジョンに係る市民ワークショップ」には、浦町中学校の子ども達が何人か参加したほか、浦町中学校では、地域の町会の方と話し合いをするという催しが行われており、こうした活動から様々広がっていくものもあるのではないか。このエリアは文教地区であり、学校の諸団体等を活用した様々な活動が考えられると思う。

(内海座長)

- ・次段階（基本計画等）の話であるが、建物整備後の運営についても考えておく必要がある。統合施設は市が直接的に運営に関わっていくのではないかなと思うが、棟方志功記念館については、工藤委員から話のあった学校運営協議会のようなものを立ち上げ、色々な企画をしながら市民のアイデアを取り入れるという運営方法も考えられるのではないかな。そうすることで、市民の間に自分達の施設であるという意識が醸成されると思う。

(服部委員)

- ・食にまつわることは、その場所に居たり回遊することに非常に大きく関わる重要なことであり、子どもにとっての食育にも繋がる。このエリアに居られるような食にまつわることで、何か考えていることはあるのか。

(工藤委員)

- ・先般、棟方志功記念館の利活用について学校の先生方も含めて話し合いを行った場で、体験学習を行っている子ども達を待っている間に居られるところとして、喫茶や食事の場所があれば良いという意見があった。人が集まる場には、そのような飲食に関わる場所は設置されるべきではないかと考えている。

(内海座長)

- ・かつて中央市民センターの空襲資料展示室の場所に食堂があり、国際芸術センター青森（A C A C）にもカフェがあったが、いずれも現在は機能していない。民間が参入するのならば採算についても考える必要がある。逆に言えば、経営を成り立たせられる人を集めてくる必要がある。
- ・休憩や雑談ができる場所、自動販売機等も含めたカフェのようなものがあると良い。意図的に「〇〇カフェ」と銘打ち、スタートアップ事業等の様々なことができるビジネスカフェのような取組も一つのアイデアとして良いかもしれない。八戸ポータルミュージアム「はっち」では、施設内で実際にスタートアップ事業の前々段階のようなことを経験し、その後外へ出て自分で事業を始めるという取組を行っていた。いずれにせよ様々な展開を可能にできるよう、あまり制限をかけないようにしておくことも重要だと思う。

(高樋委員)

- ・ここは文教地区とされているが、棟方志功記念館が営業していた頃は多くの観光客、特に高齢の方も訪れており、そのような方が来なければ立ち行かないのではないかな。児童の学習のみを対象としたエリアになると、食やインキュベーション（新たなビジネスの誕生を支援する取組）は成り立たないと思う。イメージ図には、外から人を呼ぶ観光の目線が不足していると感じるため、青森県立美術館や国際芸術センター青森（A C A C）等と連携するのであれば、次のステージで、人を引っ張ってくる動線の在り方を考えてほしい。

(帆江オブザーバー)

- ・現在、棟方志功記念館及び統合施設という建物の整備や機能について集中的に議論されているが、前回の有識者会議で、この地区を歩くと色々な文化資産等が多くあり点ではなく面で

考えようという意見が出たように、まちづくりにとって最も重要なことはそこだと思う。イメージ図で面を捉えることはできるが、棟方志功記念館と統合施設から、文芸のこみちや平和公園にどのように人を導いていくのかということが見えず、ここに在るということが示されているだけであり、道標の整備に関する言及等があれば面が活きてくるのではないかと感じた。今後基本計画を検討する段階で、その点はぜひお願いしたい。

- ・服部委員の意見と同様、食べたり飲んだりする場所というのは大事だと思う。まちづくりと言うと、ヨーロッパの街中の街路に面したカフェテラスで、おしゃべりを楽しむお年寄りがたくさん居るような光景が連想されるが、非常に良いものだと思う。建物内でも通りのどこかでも良いと思うが、そのような場所があると、外から訪れた人からも、この街はちょっと違うなと評価してもらえるのではないかな。そうしたことを今後の基本計画の段階で活かしてもらいたい。

(池田委員)

- ・他の委員からの意見と同様、どのように人を集めるのかが大事だと思う。行きづらかったということが棟方志功記念館閉館の理由の一つでもあると思われるため、食等を含めより多面的に、観光客も含め様々な人がここに集まるような仕組みづくりをする必要がある。例えば青森市のパサージュ広場のように、期限を区切り実際に店舗経営を行ってみるという取組もある。また、近辺に多目的に使用できる広場をつくり、キッチンカーでカフェを出せるような仕組み・場所を提供するなど、様々な人が工夫してこのエリアに人を集めるための取組ができるようにすることも大事だと思う。
- ・以前はねぶたん号が棟方志功記念館まで来ていた。青森県立美術館や国際芸術センター青森（ＡＣＡＣ）はこのエリアから離れているため、交通面でも市民や観光客が使いやすいものを検討するなど、文教の中心をこのエリアに持ってくるのであれば、ここに人を集めるという強い意志や広い視点を持って進めてほしい。

(富士委員)

- ・食にまつわることや、観光客をどのように呼び込むか等の人集めの前提として、コンパクトシティという青森市が目指している都市計画構想から言うと、このエリアでどのように一般市民が日常の生活を歩いて暮らせるかということが骨格であると考えており、ハード面の要旨についてはビジョン（案）２２ページに記載されているが、基本計画という次の段階に進むに当たって、今後の運営等のソフト面に関しても、本来はこのページに記載されるべきではないか。
- ・大体、公共施設を建設する場合は、次のステージである基本計画の段階で、ある程度の規模、ボリューム感を掴んだ上でソフトを中心に検討し、そのソフトに則ってハードを設計していくことになるが、ビジョン（案）の内容は複雑であり、かつ地区全体のエリアマネジメントということを考えると、何を目指すかという基本構想について、ハードとソフトの両面からワークショップ等での意見交換が必要ではないか。他都市の事例だが、立川市の市庁舎建設においては、まちづくりワークショップを設計開始前に複数回開催し、ワークショップの中で設計者も選定するとうイレギュラーな順序で進めたという例もあり、これまでにない、青森市らしいまちづくりの進め方を検討の一つに入れても良いのではないかな。

(内海座長)

- ・富士委員の意見で出たように、時間はかかるかもしれないが雰囲気盛り上げるためには、ワークショップ等により、市民のものであるという感覚を持ってもらうことが大切である。

今後、ビジョン（案）についてのパブリックコメントも予定されているが、松原地区の住民も含め、市民全体や外部からの意見をいただくことが大事である。

- ・公民館そのものは、人、情報、物等の色々なものが交流する市場のようなものであり、そうした機能を持ちながら、食やその他様々な要求に応じていくということになると思う。人口減のなか、効果的に市民がゆとりを持って楽しく暮らせるかどうかという意味での、文化芸術の学習活動としての棟方志功記念館の活用の仕方、統合施設を検討することになる。
- ・ケーブルテレビを見て、文芸のこみちを歩いてみた。例えばイベント等をやることになれば、住宅街でもあるため騒音にならないように等の制約があると思うが、この場所は誰が管理しているのか。

（事務局）

- ・文芸のこみちは都市計画決定されている緑地であり、市の公園河川課が管理している。

（内海座長）

- ・施設を中心として、今後、この地区でどのように連携や回遊を行い効果的に活性化させていくのか、また、周辺地域と一体となり持続的な文化振興を進めていくための運営の仕方、基本計画・設計等の前後等の進め方について、できる限り市民の意見や色々な知恵を活用すべき等の意見をいただいたので、事務局にはぜひ今後の取組を進めるに当たって参考にしてもらいたい。